令和２年度　よつば学府　**中学部　城山中学校**　　学校経営（案）

１　学校教育目標　＝　学府教育目標

郷土を愛し、志をもち、自己実現をめざす生徒

～ よりよい社会と幸福な人生を自ら切り拓く“未来の創り手”の育成に向けて ～

自分がやりたいことが社会貢献となる姿が「自己実現」。生徒が自己実現に向かって成長するためには、（いじめや虐待等ない）安全欲求・（家庭・学級での所属感がある）社会的欲求が充たされはじめて、生徒自らが、尊厳欲求・自己実現欲求へと向かう。学校は、家庭、地域と、そして必要とあれば、福祉・医療機関とも連携していく。

また、学校が本来的に担う教育活動（学習指導・生徒指導・部活動等）を通して「生きる力」を養い、生徒自らが自己実現に向かって絶えず成長できるための基盤を育む。

そして、教職員自身が自己実現に向かう姿も示していきたい。

２　学校経営方針　（学校教育目標実現のために、人・物・資源をどう重点配置するか）

⑴　深い生徒理解から、とことん寄り添う組織的生徒指導の推進
（特別な配慮を要する生徒への対応、ケース会議の実施…虐待・貧困等、いじめ・不登校等）

⑵　「主体的・対話的で深い学び」の実践。学習評価の理解と指導との一体化
（校内研修を中心とした新たな学習評価への対応と授業改善、評価結果の指導への活用）

⑶　「ONE TEAM」…職員集団、学年・学級、部活動等への所属感の醸成
（管理職の目配り・気配り・支援。学年主任を中心とした学年集団作り、学級担任による行事や日常生活による生徒の学級所属意識の高揚、部活動顧問による部員の一体感の醸成）

⑷　教育活動において、小中一貫教育の推進と学府の運営協議会等の効果的活用
（小中一貫教育による中一ｷﾞｬｯﾌﾟ解消、小中兼務実施、地域の教育力を活かすＣＳの充実）

※　聖域なき働き方改革の推進　（職員のやりがいを損ねない）

３　めざす子どもの姿(生徒像)【重点目標】（小学部でも中学部でも願う姿）

自己実現を目指す際、生徒個々の生きる力の基盤となる「知育」・「徳育」・「体育」の調和のとれた成長。そして徳育にも関係する、「生命の尊重」「郷土を愛する気持ち」をとりわけ意識して指導するため、五つの視点を重点目標とし、指標を設定しＰＤＣＡサイクルをまわしていく。

【知育】目標をもち、自己・他者・対象と対話し、学びを深める子供
☆他の生徒や先生とかかわり合いをもち、学びを深めていると考える生徒の割合
（　R1=97.6%　）　　→　９５％

【徳育】自他を尊重する心をもち、正しく判断し、よりよい自分を発揮する子供
☆ルールを守り、協力する雰囲気がある学校（学級）であると考える生徒の割合
（H28=79.3%　H29=80.9%　H30=80.6%　R1=85.7%）　→　95%

【体育】しなやかな心をもち、心身を鍛え合い、困難に挑戦する子供
☆保健体育科の授業や部活、社会体育やクラブチーム等に参加したり、個人でトレーニングをしたりして自分の心身を鍛えていると答える生徒の割合
（H28=79.2%　H29=79.4%　H30=85.0%　R1=83.8%）　→　９０％

【生命】かけがえのない命を大切にし、精一杯生きる子供
☆命を大切にして、人・もの・ことにかかわっていると答える生徒
（R1=93.2%）　→　100%

【地域】 郷土に学び、自ら考え、地域社会によりよく関わる子供

☆機会があれば、チャレンジ活動（地域貢献活動）に参加したいと答える生徒の割合

⑽H28=:61.6%　H29=68.2%　H30=69.3%　R1=69.7%⑽　→　75%

４　学校運営方針　(経営方針(1)～(4)に沿った具体的取り組み)

⑴-1 副主任者（生徒指導対策）会で、具体的支援の明確化・共有化を図る。必要に応じケース会議で十分に協議し実行できることを行う。学級担任・⑽副⑽主任に加え、養護教諭・生徒指導主事・特別支援教育コーディネータ（サポート教室担当者）が家庭、医療・福祉と連携し支援する。

⑴-2 小学部と情報共有し、発達段階に応じた特別支援教育、個に応じた支援を推進する。必要であれば、早い段階で医療や福祉機関との連携を図る。教員が小・中兼務する中で、生徒理解に関しての情報共有と、支援・指導の一貫性を高める。

⑴-3 学校生活に適応困難な生徒の居場所（保健室登校・サポート教室）を確保するとともに、その生徒が通常学級に戻れるよう、学級担任等のアプローチを増やす。生徒に寄り添う学年体制を主任・副主任を中心に構築する。

⑵-1「主体的、対話的な深い学び」に迫る、単元・題材のデザイン力を高める校内研修、考え議論する道徳を実践する。

⑵-2 各教科における指導と評価の一体化を進め、新学習指導要領に対応する評価・評定の準備と授業力を向上させる。

⑵-3 よつば学府教育の機軸「対話活動」コミュ・トレでつけた力を、「学びを深める対話」につなげる。また、社会に開かれた教育課程の実践により「地域とつながる対話」を推進する。

⑶-１　教職員が互いの心身の状況に気を配り、協働により無理をさせない体制づくりを、運営委員会・学年会、職員室等で意見を言い合える環境づくりを行う。

⑶-2　期首面談等の機会に、自己目標シートを活用した教職員の能動的な活動の支援と、管理職等による活動への適切な称揚や励ましによって意欲向上を図る。

⑶-3 生徒が、二大行事（体育大会・よつば祭）への取組や日頃の特別活動・生徒指導を通して、所属感をもてる学級づくりを推進する。

⑶-4 部活動において、技術向上を中心に据えるのでなく、折れない心の育成や集団への貢献・所属感をもたせることを重点においた指導を推進する。

⑷-１　よつば学府教育の３つの機軸「信頼を築く対話」「学びを深める対話」「地域と
つながる対話」の推進として、レジリエンスやコミュ・トレ等の共通実践の充実を図り、施設分離型一貫校としての取組を推進する。

⑷-2　小中共通した校務分掌の利点を生かし、各部で児童・生徒のよりよい成長のための取組を検討・推進する。

⑷-3 中学校の教員を北小・富士見小に兼務させることで、中一ギャップ軽減を図る手立てを、現状から明らかにし、その実践にあたる。

⑷-4 生活・交通・災害安全への意識高揚と危険予知・回避力を向上させる安全教育の充実を地域・保護者及び小学部とのつながりの中で進める。

⑷-5 地域とともにある学校として生徒の地域貢献活動への参加意識をより高めるとともに、いわた大祭りや裸祭り等地域行事との連携を持続可能なものとする。

５　学校評価における数値目標　（含：磐田市の目標指標）

■【 生　徒 】■

⑴　学校が楽しい。（市）　（９０％）
⑵　授業の内容がよく分かる。（市・県）　（８５％）
⑶　今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。（市）　（６０％）
⑷　進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している。（市）　（７０％）
⑸　学校に相談できる（信頼できる）先生や友人がいる。（市・県）　（９０％）
⑹　自分からあいさつや返事がきちんとできる。　（９０％）
⑺　授業で自分の意見や考えを、筋道を立てて他者に伝えている。　（７０％）
⑻ 城山中学校の生徒会活動（専門委員会、その他学級の係活動）に協力して取り組んでいる。　（９０％）
⑼　城山中の生徒であることに誇りを感じている。　（８０％）

■【 保護者 】■

⑴　城山中及びよつば学府が目指そうとしている子供の姿や教育内容について知っている。　（８０％）
⑵　城山中の先生は、子供のことを理解して指導にあたっている。　（８５％）
⑶　子供と日常的に会話をしている。　（９５％）

■【 教　師 】■

⑴　学府教育目標・目指す子供像を意識して指導をしている。　（８５％）
⑵　学校経営目標を意識し、小中の接続、小小の連携を意識して教育活動を進めている。　（９０％）

６　勤務環境改善

⑴　ミライムによる出退勤状況及び部活動申請により、勤務実態の把握を管理職が行い、時間外勤務８０時間（過労死ライン）を超えないよう繰り返し指導する。勤務時間を意識したスケジュール管理ができるよう教職員の意識改革を進める。
⑵　教職員自らが「働き方改革」のためにできることを考え、学年会や分掌部会で話し合う機会を設定し、職員会議や運営委員会で提案する場をつくり、一つでも実現できるように努める。
⑶　ガイドラインに沿った部活動の適切な運営に努め教員の負担軽減を進める。
⑷　個々の分掌業務において、教育計画を働き方改革の視点で再構築を求める。
⑸　コミュニティ・スクールやよつばプロジェクトなどによる保護者・地域・外部機関、団体等との連携による外部人材の活用、スクールサポートスタッフのより効果的活用を進める。